

「図書館の意義」

工学部 2年

稲見 望

今回この文章を執筆するにあたり図書館の意義について今一度考えてみることにした。私自身、香川大学に入学して1年半が経ったが、図書館を利用したのは数えるほどしかない。

図書館を利用する目的は、基本的に読書を楽しむことや勉強することである。しかし、今日図書館は多目的な活動を助ける場になってきている。

一番顕著な例は、世界中に広がるインターネットに接続できる環境がそろったことである。香川大学には、情報処理センターがあるが図書館にも今年、多くのパソコンが導入され学生にとってパソコンの基本操作を学ぶとともにインターネットが身近なものになった。インターネットは世界に無数にあるWebページから情報を探ることができるが、必要な情報が見つかりにくかったり見つかったとしても思うように詳細な情報でなかったりする場合もある。この

ような場合に図書館にある多くの文献が必要になってくる。インターネットと図書館の文献を組み合わせることにより、より確実に必要な情報を得ることができる。

また、視聴覚機器を利用して多くのビデオやLDなどを見ることができ図書館の新たな可能性を見ることができる。

このようにいろいろ便利なサービスがあるにもかかわらず、なかなか学生に浸透していないというのが現状である。また、あまり利用したことのない人間にとってはなかなか入りづらい場所になっている。

とはいえ、このようなサービスを活用しないのはもったいないことである。

これからはいままでの分を取り返す意味でも今までの図書館のイメージにとらわれることなく、多目的空間として図書館の利用をしていきたい。

